

第2版はしがき

本書は、初版刊行以来3年間にわたり、京都産業大学法学部の1年生春学期開講科目「法律学入門」のテキストとして用いられてきました。おかげさまで、学生や授業担当教員、あるいは同僚の法学部教員から好意的な評価を頂くこともしばしばで、法学部新生の学びはじめのサポートに、多少とも貢献できているものと自負しています。さらに、いくつかの大学で、新生対象科目の教科書に指定していただくなど、他大学の法学部教員にも、「学生のつまずきの石を出発点にする」というコンセプトが共感をもって受け止められたことに自信を深めてもいます。

もっとも、「法律学入門」の授業を行う中で、もっと意図がうまく伝わるように書き方を工夫した方がよいところというの、いくつか見えてきました。そこで、その点を補足した第2版を刊行することとしました。

とはいえ、この改訂によって目指したのは、「わからないところが出てこない」という意味で読みやすい本ではありません。読みながら、「どうしてこう考えるのだろう」「ここに書いてあることの、実際の社会での具体例は何だろう」と、たくさん疑問が湧いてきて、その疑問を手掛かりに「法学部生らしい考え方」を身につけていくことができるような本が、編者・著者の理想とする入門書です。

改訂にあたって、初版の刊行と同様、法律文化社の野田三納子さんにお世話になりました。心より感謝申し上げます。

2017年9月

吉永一行